回千葉医学会整形外科例会，1978．12，千葉．

12） 辻陽雄：En-bloc laminectomy，第51回日本整形外科学会総会，1978．5， 盛岡．

13） 辻陽雄：シンポジウム・多数回手術を要した腰椎疾患への対策――主としてanterior からの対処――，第27回東日本臨床整形外科学会，1978．9，札幌．

14） Inoue, S., Tsuji, H., Murata, T., Tamaki, T. and Tanaka, T.：Anterior interbody fusion for the lumbar disc lesion――Long-term follow-up results over ten years――XIV World Congress of Sicot, Oct., 1978, Kyoto.

15） 辻陽雄：不安定性をともなう腰部椎間板ヘルニアに対するCloward 椎体間固定術変法，第69回北陸整形外科集談会，1978．12，金沢．

3．原 著

1） 山田均，高木学治，高橋淳一：多発骨折症例の検討．日災医誌 **26**：7－12，1978．

2） 渡辺恒夫，宮坂斉，井上駿一，玉置哲也，小林英夫：教室における切断肢再接着30例の経験．千葉医学会誌 **54**：235－241，1978．

3） 渡辺恒夫，井上駿一，辻陽雄，宮坂斉，伊藤達雄：頸椎後縦靱帯骨化に対する前方除圧法．手術 **32**：59－67，1978．

4） 辻陽雄，宮坂斉，高橋和久，野口哲夫：頸椎前方除圧，固定術における術中術後の頸椎姿勢と一過性脊髄障害．中部整災誌 **21**：450－452，1978．

5） 保坂瑛一，辻陽雄，小林影，栗原真：Degenerative spondylolisthesis redundant nerve roots. 整形外科 **29**：538－542，1978．

6） 伊藤達雄，辻陽雄，坂巻皓，布施吉弘：著明な腰椎側方辷りに伴うparaparesis．臨床整形外科 **13**：786－789，1978．

7） Tsuji, H. and Tamaki, T.：Studies on the intraosseous blood circulation and bone marrow pressure in human lumbar vertebrae, Internat. Orthop.（Sicot） **2**：17－24，1978．

8） 辻陽雄：En-bloc laminectomy.，整形外科，**29**：1755－1761，1978．

4．総 説

辻陽雄：脊柱の加令変性と臨床的意義．総合リハビリテーション **6**：333－338，1978．

5．著 書

1） 辻陽雄：脊髄先天血管奇形，中山恒明・榊原仟監修・新臨床外科全書，17－Ⅰ，42－46頁，金原出版，1978．

2） Tamaki, T.：Clinical application of spinal cord action potentials. Clinical application of spinal cord monitering for operative treatment of spinal diseases. ed. C, L. Nash, Case Western Reserve Univ.，1978．

6．その他

1） 辻陽雄：脊椎外科研究会（東京）総括非結核性炎症．臨床整形外科 **13**：410－412，1978．

2） 辻陽雄：肩，腰，膝の見方，考え方――他科のための整形外科――．富山保健医協会発行，1978．

3） 玉置哲也：第12回S. R. S. meeting（香港会議）印象記．臨床整形外科 **13**：621－622，1978．

産 科 婦 人 科 学

教 授 泉 陸一
助教授 柳沼 忞

1．研究概要

1） 泉：性器癌の基礎的・臨床的研究を進めている。とりわけ卵巣腫瘍について診断法の探究と合法的な治療基準の設定を試みている。診断法については生化学的アプローチの一つとしてＣＥＡ測定の意義と限界を明らかにした。卵巣腫瘍における境界病変について核径，核ＤＮＡパターンなどの形態学的検討を行ない，その成績に臨床像を裏づけることにより境界病変の腫瘍性格を究明し，本腫瘍の診断ならびに治療方式の確立をめざしている。

組織培養法を用いて腫瘍の制癌剤に対する感受性に関する検討を引続き行っており，治療の個別化による治療成績の向上のための基礎データーを求めている。

2） 柳沼：ｉ）婦人において視床下部―下垂体―卵巣系の正常な働きは，排卵現象の存在によって代表される。この現象は種々の因子によって阻止されるが，比較的多いのはストレスによるものである。ストレスによる無排卵・無月経症の内分泌的研究および統計的研究により，その治療方針を確立した。しかしながら，かかる疾患の発生および進展機構には未だ不明な点が多く，現在さらに研究中である。

ii） これに関連して，他の種類のストレス，すなわち手術・麻酔や妊娠，分娩における婦人の内分泌的変化を検討中である。

iii） プロラクチン高血症による無排卵症をＣＢ154により治療すると共に，その発生機構を研究中である。

iv） 胎児内分泌機能のうち，成長ホルモンの胎児成長に対する意義を検討し，子宮内胎児発育遅延の

発生・治療を研究している。

v) 不妊症の主要な一因である子宮内膜症の治療には未だ決定的なものがないので，現在Danazol療法を検討中であり，あわせてその内分泌機能に対する影響を検索し，その作用機構を解明中である。

2. 学会報告

1) 泉陸一，柳沼忞：卵巣低悪性度腫瘍の核径による検討，第26回日産婦北日本連合地方部会総会，1978. 9， 盛岡.

2) 岡村隆，小林拓郎，柳沼忞：17α-pregn-4-en-20-yno2, 3-disoxazol-17-ol (Danazol) の中枢下垂体卵巣系機能に対する影響と臨床応用，第51回日本内分泌学会総会，1978. 6， 東京.

3) 柳沼忞，岡村隆，小林拓郎：高プロラクチン血性無排卵症の内分泌学的検討および治療．第23回日本不妊学会学術総会，1978. 11，東京.

4) 岡村隆，小林拓郎，柳沼忞：Danazol の短期間および長期間投与の月経周期に対する検討．第23回日本不妊学会学術総会，1978. 11，東京.

5) 岡村隆，小林拓郎，柳沼忞：17α-pregn-4-en-20-yno2, 3-disoxazol-17-ol (Danazol) の中枢下垂体卵巣機能に対する影響と臨床応用，第23回日本不妊学会学術総会，1978，11，東京.

6) 柳沼忞，泉陸一：子宮内膜症の「偽閉経療法」について，第26回日本産科婦人科学会北日本連合地方部会総会，1978. 9， 盛岡.

7) 柳沼忞，泉陸一：ストレスの女性内分泌機能に及ぼす影響，日本不妊学会北陸支部総会，1979. 12，金沢.

3. 原 著

1) 滝沢憲，川名尚，白水健士，菅生元康，川端正清，坂元正一，泉陸一，藤野雅之：卵巣腫瘍患者血清中の癌胎児性抗原．臨床婦人科産科 **32**：767－771，1978.

2) 柳沼忞，小林拓郎：周産期における児成長と成長ホルモン．日産婦誌 **30**：39－44，1978.

3) 柳沼忞，貝原学，岡村隆，寺脇信二，気賀沢和子：妊婦血中エストリオール測定のためのOestriol RIA Kit の実用価値．産婦人科の世界 **30**：289－293，1978.

4. 総 説

1) 泉陸一：コルポスコープ，産婦人科の新しい診療器．産婦人科の世界，増刊号：13－16，1978.

2) 柳沼忞：17α-pregn-4-en-20-yno-2, 3-disoxazol-17-ol (Danazol) の基礎．産科と婦人科 **45**：309－315，1978.

3) 柳沼忞：胎児の内分泌機能に影響を及ぼす薬剤．周産期医学 **8**：1507－1514，1978.

4) 柳沼忞，小林拓郎：ストレス性無月経の診療．日産婦誌 **30**：399－402．1978.

5. 著 書

柳沼忞：月経困難症．阿部他編：薬物療法の実際 874－877頁，アサヒメジカル，1978.

6. 翻 訳

柳沼忞：Krupp, M. 及びChatton, M. 著，産婦人科学．中尾他編：臨床診断と治療 441－500頁，丸善，1978.